

## 宇宙の秩序 七つの原則 (新しき世界へ 1972年9月号)

桜沢如一

### (1)はじめあるモノにオワリあり

多くの文明、多くの世界帝国、多くの王朝は興り、栄え、亡びた。猛きものは亡び、おごれるものは消えうせた。巨大な天体といえどもこの秩序をはずれない。およそこの世にあるモノは全て相対、有限、生滅、無常である。

### (2)表あるモノにウラあり

美醜、強弱、男女、賢愚、栄枯、盛衰、生死、善悪、正邪、貧富、健病、夭寿……全て表裏である。

### (3)表大なればウラもまた大なり

一長一短、作用反作用、禍福、吉凶、苦楽、興亡、和戦、愛憎、槿花一朝、桐一葉、美人薄命、英雄の末路の悲劇、指導者と大衆……

東洋と西洋－西洋の科学技術発展は史上空前で驚嘆に堪えない。しかし、その道義、言行、思想においては、また驚くべく低い(力、物、暴力、多数をもって最高判断とする傾向がある)

### (4)同一なるモノあるコトなし

全ては刻々転変するゆえに。また、その故に、交感、対応、対立、闘争、親和の現象が生成展開する。

### (5)始めや表を陽とし、オワリやウラを陰とする。

陰陽は交感、変化、反対、相剋、対立、闘争の原理である。

(6)この世の全ての流転、変化、興亡、転換、生滅は常時不断無常であるが、その「無常」の原理とメカニズムは、この相対変化の無双原理の12定理に分解して示される。これは無常の恒常性である。

(7)この無常の恒常性の本体こそ古来、無限、絶対、空、畢竟空、無、永遠、上帝、ブラフマン、神、道、霊、大生命ナドと呼ばれたモノである。(この無常の恒常性と、その無常変転の原理を体得したモノだけが幸福と自由を一生たのしみ、平和と正義を世に樹てるモノである。

これらの名は、ややトモすれば、静的、神秘的、形面上学的、抽象的な概念、観念に化

し、迷信のモトとなるが、この無常の恒常性は無限の速度をもって不断に絶対に、永遠に爆発的展開をつづける動的な変化の噴泉である。むしろ絶対無限純粹エキスパンションそれ自体である。

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください